



皆様お久しぶりです。暑い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。放射線技術部広報誌は、今月号からタイトルを改め、【Radiation focus】として皆様に情報をお届けします！



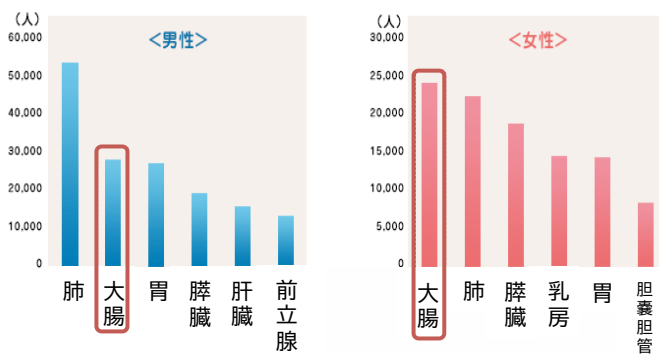
## 検診大腸CT始めました！



臓器別がん死亡者数(2021年)

大腸がんは、がん部位別死亡率が女性で第1位、男性で第2位と、男女共に死亡率の高いがんです。(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」)

大腸がんは見つけるのが早ければ早いほど治る可能性が高くなります。早期の段階で発見できるように、定期的な検診を受けることが重要となります。

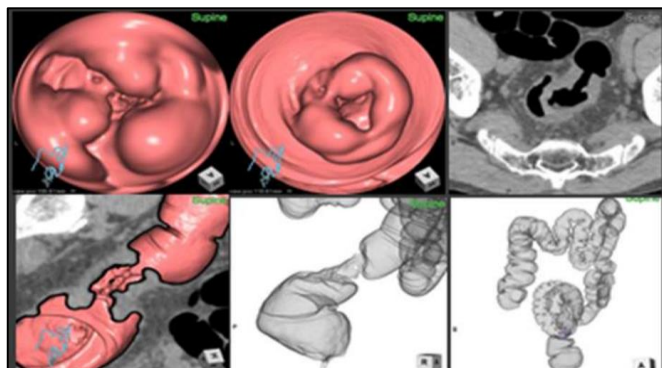


### 大腸CT検査とは

細いチューブを肛門から20cmほど挿入し、大腸に炭酸ガスを注入して大腸を拡張させた状態でCT撮影をする新しい検査方法です。

大腸内視鏡検査がつかった方でも比較的楽に検査を受けることが可能です。

大腸内視鏡検査に次いで高い精度で大腸がんを検索することが可能であり、CT画像を処理することにより、3D画像のような仮想の内視鏡映像を構築して大腸がんを発見します。



### 検査の流れ

#### 【検査前日】

①前日に検査食を食べていただきます。

#### 【検査当日】

②下剤を服用していただき大腸内をきれいにさせていただきます。

③撮影前に腸の動きを抑える注射をします。

④細いチューブを肛門から20cmほど挿入し大腸を拡張させます。

⑤うつ伏せと仰向けの2回でCT撮影を行います。1回の撮影時間は約10秒程度です。

⑥検査は10~20分で終了します。

#### 【検査】

##### ① 検査前



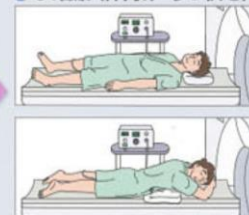
トイレに行き検査に備えます。

##### ② 炭酸ガスで大腸を拡張





肛門に細いチューブを挿入し、大腸へ炭酸ガスを注入します。

##### ③ CT撮影(仰向け・うつ伏せ)



仰向け、うつ伏せの状態それぞれ撮影します。1回の撮影時間は10秒程度です。

# 大腸CT検査の特徴

	大腸内視鏡検査	大腸CT検査
		
検査概要	カメラを肛門から大腸の奥まで入れ、大腸内部を直接観察する。	小さいチューブを肛門部に入れて大腸を広げた状態でCT撮影し、3次元画像で調べる。
検査時間	15～30分程度	10～20分程度(短い)
前処置(下剤)	2000ml飲用(ニフレック飲用時)	800ml飲用(少ない)
長所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の検査(生検)ができる。</li> <li>・ポリープ切除の治療ができる。</li> <li>・小さい病変や平らな病変も発見できる。</li> <li>・残渣、残液を除去しながら観察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査は内視鏡検査より短く、楽である。</li> <li>・下剂量は内視鏡検査より少ない。</li> <li>・痛みがほとんどない。</li> <li>・ヒダの裏側や曲がり角など死角となる部位も観察することができる。</li> <li>・腹部CT撮影を行うため、肝臓や膵臓など大腸以外を観察することができる。</li> </ul>
短所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査時に苦痛を伴うことがある。</li> <li>・ヒダの裏側や曲がり角など死角となる部位の病変は見つけにくい。</li> <li>・狭窄部位にはカメラが挿入できないことがある。</li> <li>・下剤の量が多め。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の検査(生検)ができない。</li> <li>・ポリープ切除の治療ができない。</li> <li>・小さい病変や平らな病変を見つける能力は内視鏡に劣る。</li> <li>・残渣、残液の調整、除去ができない。</li> <li>・医療被ばくがある。</li> </ul>

## 検診に関するご予約お問い合わせについて

検診大腸CT検査は、本年度より**オプション検査項目**として導入いたしました。

ご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、健康増進センター窓口にお越しいただくかお電話およびホームページからのご予約をお願い致します。

○お問い合わせ時間 月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○健康増進センター直通 ☎ :0956-33-5335 FAX:0956-33-5336 メールアドレス:[sch-kenkoh@hakujiyujikai.or.jp](mailto:sch-kenkoh@hakujiyujikai.or.jp)

## Radiation Colum

### 要注意！MRI検査を受ける前に

MRIでは、非常に強力な磁石を用いて検査を行うため、検査室内に金属を持ち込むことができません。MRI装置の近くに金属類を近づけてしまうと、装置の強い磁力によって金属がひきつけられ、装置に吸着して取れなくなったり、衝撃により装置が破損したり、患者さんが怪我をしてしまう危険性があります。そのため、検査の際は問診票や口頭での確認などにより入念な金属チェックを行います。

今回は、普段見落とされがちなMRIを行う上で注意すべき金属の中から1つご紹介します

皆様は、マグネットネイルというものをご存じですか？

マグネットネイルとは、鉄粉入りのジェルを爪に塗った後に磁石を近づけることで、反応した鉄粉が幻想的な模様を描くネイルアートのことです。

マグネットネイルを付けたままMRI検査を行うと、ジェル内に含まれる鉄粉がMRI装置の強力な磁力に反応し、火傷やネイルの破損が生じる可能性があります。

そのため事前にネイルを外して検査を受けて頂く必要があります。

